



参地直笑祭 in 北区

桂文枝の大阪市24区創作落語プロジェクト

桂文枝さんが北区に「参」上! 北区の特色を盛り込んだオリジナル創作落語で「地」域の皆さんに「直」に「笑」いをお届けします。

1/21 (火) 16:00~(開場15:00)

北区民センター2階ホール
(北区役所隣)

【定員】450名(多数抽選)

【出演】桂文枝ほか

【対象】区内在住・在勤・在学の方
※未就学児は入場不可

【申込】12/3 (火) まで往復はがき(必着)にて受付

※往信うら面には代表者の住所・氏名(ふりがな)・電話番号・参加人数(1枚4名まで)を明記 ※返信おもて面には代表者の住所・氏名を明記(返信うら面には何も記載しないでください。抽選結果を記載して返送します)

詳細は北区ホームページ▶



往復はがき記載例

※返信おもて面には必ず代表者の「住所」と「氏名」を記載してください

往信おもて	返信うら	返信おもて	往信うら
郵便往復はがき 5308401 往信 北区役所総務課 「参地直笑祭」担当 大阪市北区扇町2-1-27	何も記載しないでください。 抽選結果を記載して返送します。	郵便往復はがき 000000 返信 代表者の住所氏名を記載してください。 大阪市〇〇区〇〇様	代表者の住所 (在勤・在学により応募の場合は、通勤・通学先名称と所在地) ・氏名(ふりがな) ・電話番号 ・参加人数(4名まで)

申込み先の宛名面

抽選結果

差出人に戻ってくる宛名面

参加申込みの必要記載事項

※車いすでの来場など、当日配慮が必要な場合は、往信うら面に合わせて記載してください
※抽選結果は公表しませんが、応募者全員にお知らせします ※消せるボールペンで記載しないでください



申 問 〒530-8401
大阪市北区扇町2-1-27
北区役所総務課
「参地直笑祭」担当宛
☎ 06-6313-9625
FAX 06-6362-3821

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

私たちのSDGs⑬

地球規模の環境問題や社会課題の解決も、まずは一人ひとりの小さな実践の積み重ねから。持続可能な開発目標(SDGs)達成への貢献をめざす大阪・関西万博に向けて、みんなで取り組む「TEAM EXPO2025」プログラム／共創チャレンジから北区での活動をご紹介します。

おにぎりと味噌汁 時々…

UPCYCLE中津荘にある「関係案内所なかつもり」で月に2回、おにぎりや味噌汁を食べる会を開催しています。毎回テーマとなる都道府県を決め、そこから取り寄せた米と味噌で作ります。米の味をストレートに味わってもらうため、おにぎりはあえて具を入れない塩むすびに。郷土料理1品と漬物が付きます。

「お米とお味噌を通じて、自分たちが暮らす日本という国を知ってもらいたい」と、2022年10月に井口香織さんがプロジェクトを立ち上げました。きっかけは大阪・関西万博です。「生まれ育った大阪で万博が開催されるときに、何かをやったという証を残したくて」。全国47都道府県を巡る企画は、愛・地球博が開催された愛知県からスタートし、今年、大阪府の米と味噌でフィナーレを迎えます。

「パンやパスタに押され、お米を食べなくなっている今だからこそ、日本のお米文化をつないでいきたい」と井口さん。会では食事をしながら、地域ごとに異なる米の味や食文化について話が弾みます。当日試食した地域の米2合と味噌100グラムをお土産に持って帰ってもらいます。「家族や友人、パートナーらと、おしゃべりしながら食べてほしい」と井口さん。

石川県では弥生時代のおにぎりの化石が出土するなど、日本人は米と深く、長く関わってきました。「お米を食べることで、農家さんを守ることにつながりますし、食糧自給率も上がります。みんなでわいわいそんな話をしながらごはんを食べることが、問題解決につながるかもしれないと思います」

来年からは全国の米農家を訪ね、現地で郷土料理を教えてもらう旅を始めます。その様子はInstagramやnoteなどSNSを使って発信・アーカイブとして残していきたいと考えています。



ライスプランナー
井口香織さん

TEAM EXPO 2025

全国47都道府県のお米とお味噌を食べ尽くそう!

〈目標〉
12 つくる責任 つかう責任

持続可能な消費生産形態を確保する

《SDGsチャレンジ》
何千年と続く米の歴史を知ろう



第29回は福島県の米「福、笑い」と鈴木靴店の味噌を試食



おにぎりや味噌汁 時々… Instagram▲



共創チャレンジ「おにぎりや味噌汁 時々…」のページ▲

新旧様々な“推しスポット”がある北区! 最新情報と共にお伝えします

一般財団法人 南蛮文化館

場 中津6-2-18



南蛮文化館
ホームページ▲

南蛮文化の美術品を展示する私立美術館

南蛮美術の品々やキリシタンの遺品などを展示する私立美術館です。展示品保護のため、氣候がいい5月と11月に開館しています。

安土桃山時代から江戸時代のはじめ、ポルトガルやスペインの商人や宣教師らが多数来日した際、西洋文化と日本文化が融合することで誕生した南蛮文化。南蛮文化館では重要文化財の南蛮屏風をはじめ、細川ガラシャ夫人の遺品と伝えられる十字架、蒔絵や螺鈿の技法を用いた工芸品など、当時の貴重な美術品を展示しています。折り目状の傷が縦横についた「悲しみのマリア像」は、福井市にある医師の家の土堀に、竹筒に入った状態で塗り込められていたもの。キリシタン弾圧の時代を越えて現代に伝わった傑作と高い評価を受けています。1970年の大阪万博の時には、ローマ法王の代理としてマリヤ枢機卿が来館しました。

北村芳郎さんが生涯をかけて収集

これらの美術品を収集したのは、現理事長で学芸員を務める矢野孝子さんの父、北村芳郎さん。中津の大地主の跡取りとして生まれた芳郎さんは東京帝国大学に進み日本史を専攻、東洋と西洋の交流について研究していました。学徒動員で出征中の1945年(昭和20年)6月の大阪空襲で実家は壊滅、両親を失います。帰国して家の再建などで苦労を重ねた後、40歳頃から収集を始め、1968年(昭和43年)、自宅の庭だった場所に南蛮文化館を開館しました。

南蛮美術を後世に残したい

「父は、自分と同じように南蛮美術を勉強したい、知りたいと思っている方たちのために南蛮文化館を造りました。父の思いと共にこの美術館を次の世代に残していきたいですね」と孝子さん。阪急中津駅から徒歩5分の南蛮文化館をこの秋、訪れてみませんか?



重要文化財の南蛮屏風(一部)

エントランスに入ると、細川家九曜紋入りキリシタン鐘を吊っている中庭があります。ここで少し気持ちを整えてから、展示室へ入ってみてください。タイムスリップするような感覚を楽しんでいただけたと思います。



理事長で学芸員の矢野孝子さん

教えて! 北区の“推しスポット” ⑦

北区広報紙「わがまち北区」の点字版の送付をご希望の場合は、お申し出ください。 政策推進課 ☎06-6313-9474

なお、音訳版(CD)をご希望の方は「北区ボランティア・市民活動センター(北朗バラの会)」までお申し出ください。 ☎06-6313-5566

わがまち北区 12